

低コスト作業システム構築事業（継続）

【平成21年度予算額 152,952（201,600）千円】

事業のポイント

森林施業を効率的かつ効果的に実施するため、作業路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムの整備、実証及び普及を行います。

- ・我が国の木材の生産コスト（6,900円 / m³）は、オーストリア（3,100～3,600円 / m³）の約2倍、フィンランド（1,400円 / m³）の約5倍。
- ・全国の素材生産量に占める高性能林業機械を使用した素材生産量の割合は、平成16年度の素材生産量15,615千m³（素材需給統計）の3割程度。

政策目標

素材生産量に占める高性能林業機械を使用した生産量の割合を平成27年度に6割へ拡大（3割（平成16年） 6割（平成27年））

< 内容 >

高性能林業機械の生産性に影響を与える路網と機械を組み合わせた低コスト・高効率な作業システムのモデルを開発し、林業事業者等に提示します。

また、同モデルを現地で実証するモデル林を設定し、研修等の場とすることによって、低コスト作業システムの導入・普及を促進します。

1．路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システムの開発

路網の密度・規格等と新たに開発した機械や現在使用されている機械を組み合わせた低コスト作業システムモデルを開発します。

2．低コスト作業システムの実証

低コスト路網と低コスト作業システムモデルを現地で実証するモデル林を設定し、実証データの収集を行うとともに、その導入マニュアル、教材等を作成します。

3．低コスト作業システムの普及促進

モデル林をフィールドとした講習会や現地研修等を実施するとともに、OJT研修等に際し、講師派遣等の支援を行います。

< 補助率 >

定額、1 / 2

< 事業実施主体 >

民間団体

< 事業実施期間 >

平成19年度～21年度（3年間）

[担当課：林野庁研究・保全課]